



東京ビッグサイトでは、『危機管理』をテーマにした総合トレードショー「危機管理産業展」と「テロ対策特殊装備展」を10月9日～11日の3日間、東京ビッグサイト西1・2ホールにて開催した。

危機管理産業展 (RISCONTOKYO) は、『危機管理』をテーマにした国内最大級の総合トレードショーであり、「防災・減災」、「BCP・事業リスク対策」、「セキュリティ」の主要3分野を柱に、さまざまな課題やリスクに対処するための製品・サービスが一堂に集結して開催された。

危機管理に関する展示会の先駆けとして抜群の知名度を誇り、国・地方自治体関係者をはじめ、重要インフラや商業施設、製造業など、あらゆる業界の経営層や管理・総務部門などの来場者と質の高いビジネスマッチングを実現している。

出展対象品目は、津波／火山対策、防火／大規模火災対策、救助／救急医療、復旧／復興、災害対策ロボット／ビークル、自治体／機関／団体によるアイデア防災製品／サービス、BCP／BCM策定運用、保険／コンサルティング、法令／訴訟対策サービス、従業員ヘルスケア対策、物流／輸送リスク対策、危険物の保管／管理、環境リスク対策、害獣／害虫対策、違法薬物対策、監視／警戒システム／カメラ、検知／検査／分析／映像解

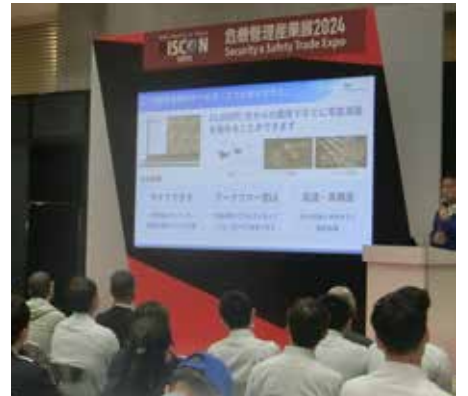
析、入退室管理／認証システム、警備サービス／特殊装備、デジタル化／DX推進 (AI、クラウドサービス、5G など)、サイバーセキュリティ対策、防災ドローン、点検ドローン、警備ドローン、感染症対策製品 (検温システム、パーティション、殺菌装置、タッチレス製品、人数管理システム) など。

一方、併設された「テロ対策特殊装備展 (SEECAT)'24」は、国内外よりテロ対策に関わる関係者が集結する国内唯一の「テロ対策」に特化したビジネストレードショーである。

厳密な入場審査を行ない、来場者を限定したクローズドショーとすることで、警察・消防・自衛隊などの治安関係者をはじめ、重要エネルギー施設や交通インフラ、大規模商業施設等の危機管理関係者とのピンポイントで効率的なビジネスマッチングを創出した。

昨今のウクライナ問題や相次ぐ北朝鮮のミサイル発射実験を初めとした不安定な世界情勢に加え、2025年に大阪・関西万博を控える国内でも会場や交通機関のセキュリティはもちろん、重要インフラのサイバー防衛や要人警護など、テロ対策への意識が高まっている。

SEECATはテロの未然防止・対策に関わる最新機器や情報が一堂に集結する場とし



多数の参加者が熱心に聞き入るセミナー会場

て多くの関係者からこれまで以上に高い期待が寄せられている。

SEECAT '24」におけるセミナーでは、内閣官房セミナー「国民保護について」／重要インフラのサイバーセキュリティの最新動向／外務省セミナー 国際テロ情勢と日本の取り組み ～広島サミット、官民連携を軸に概観するテロ対策の今後／【鼎談】サイバー、宇宙、気候変動、新領域のセキュリティ・安全保障を考える／出入国管理における水際対策～円滑かつ厳格な入国審査等の実施～／テロ対策最前線【パネルディスカッション】大規模イベントとセキュリティ／公安調査庁セミナー【2部構成】国際テロ情勢／サイバー空間における脅威の概況、などが行われた。



特殊車輛・装備品特別展示スペース「VR防災体験車輛」



様々なジャンルの各社が出展した東京都中小企業振興公社のパビリオン

【株】ほっとプレイス72

本年元日の能登半島地震の際に、皮肉にも大活躍した、『おまもりぶくろ』という製品。昨年の『おまもりぶくろ』を危機管理産業展にて発表し、受注生産を開始したのだが、それから2ヶ月に満たないうちに発生した能登半島地震。なんと、そのお膝元の石川県七尾市に本社がある『ほっとプレイス72』が開発したのがこの製品である。

防災敷物企画・開発の『ほっとプレイス72』は、関東大震災以来一世紀変わっていない“避難所の盲点”に10年以上前から着目。この「おまもりぶくろ」は折り紙を応用し、敷くだけでゾーニングまで完了する、災害時用寝袋兼敷物である。

コロナ禍は避難所の光景を変えたと思われるが、相変わらず整然と並ぶ段ボールベッドやテントが主流であり、それらは前もって備えられたもの。とっさの避難時に繰り返されるのはこれまでと同様に避難者にとって極めて不都合な状態である。特に令和になってからの異常気象が常態化し、国内ではますます「想定外の避難」が増加している。

昨今は、優秀な防災用品が登場しているものの、“避難者が入った後で”なんとかしよ

う／できる…は無理。関東大震災以来、一世紀変わらぬ未だ気づかれぬ“盲点”を解決し、72時間に関連死を防ぎたいという想いで開発したという製品である。避難所となる施設内に備蓄しておくことで、陣取り合戦になりがちな避難所をいち早く区分けし、女性や高齢者のゾーニングや、通路を確保できる。厚さは4mmあり、ブルーシートに比べて保温性が高いことも確認し、寝袋としても使えるようにしたという。

「おまもりぶくろ」^(R)の7つの特徴。

- ①スピード：体育館一面（約500㎡）120人分敷くのに、僅か2.5分
- ②手軽さ：子供から大人まで誰でも簡単、広げるだけ。自治体職員の手を借りなくてもその場にいる人で対応可能。
- ③コンパクト：省スペース：専用台車1台で180人分。ブルーシート（敷布）や毛布（上掛け）と同じく、コンパクトに施設内に保管できる。
- ④ゾーニング：敷き込み完了＝通路確保とゾーニングも完了。人数把握と名簿作成が容易になる。
- ⑤災害弱者対策：敷くと同時に、女性専用／高齢者／障害のある方専用のゾーンを



「おまもりぶくろ」考案者、松本 隆氏

設けられる。

- ⑥広さ：一区画1.62畳(2.64㎡)。「スフィア基準」の75%を確保。
- ⑦保温性・クッション性：厚さ4mmのクッション入りで下からの冷気を軽減。

日本テレビ



検出精度が99.7%の映像編集のAI自動モザイクソフトウェア。テレビ番組や自動車業界などで採用され、作業時間を最大90%削減。監視カメラ映像による行動解析等マーケティング調査、ドライブレコーダー映像での自動運転開発、医療映像の遠隔医療や研修活用など様々な用途に対応可能。モザイク入れにかかる時間を最大90%※削減。NTTデータのAI技術で被写体を自動検出。人の顔では99.7%、ナンバープレートでは99.9%という競合他社比圧倒的な精度により、先行事例では最大90%程度の作業時間削減を実現。人の顔／頭部／全身／車のナンバープレート／飲料／選挙ポスター、6種類の自動検出に対応。NTTデータのAI技術を活かし検出精度を高め続けます。

EIZO

昼夜、暗がり、悪天候においても対象物を確実に可視化。

超高感度ズームカメラ&画像鮮明化。

1. 超高感度カメラ「SSZ-9700」/「SSC-9700」：「重要施設監視・遠隔監視」

低照度環境下でのカラー撮影に優れた超高感度ビデオカメラ「SSZ-9700」を展示。日中の遠隔監視を想定Rし、回転台のハウジングに組み込み、最大350倍のズーム性能を活かしたデモンストレーションを行った。



「夜間の不審者・不審車両監視、市街地監視」 「SSZ-9700」の機能を発揮できる夜間撮影のデモンストレーションとして暗室を設置し、0.004lxの低照度環境下でのカラー撮影を紹介。

肉眼や一般的な監視カメラでの撮影では暗室内の被写体がほぼ見えない一方、SSZ-9700で撮影された映像は、カラーで認識しやすく、ノイズ感も低減されていた。

撮影された映像を確認するモニターには、



高輝度モニター「DuraVision FDF2123W」を使用し、会場照明や他社ブースの照明に影響されにくい快適な表示を行った。

2. 画像鮮明化ソリューション

「鉄道、道路、河川などの設備の状態基準保全(CBM)・点検」：

見えにくい映像に対して鮮明化処理を行い見やすくする画像鮮明化ソリューションを紹介した。カメラやレコーダーなどの映像信号に対してリアルタイムに鮮明化処理を行うハードウェアの「DuraVision EVS1VX」。静止画、映像ファイルに対してPCで処理を行う「画像鮮明化ソフトウェア」。それぞれの利点を活かしたデモンストレーションを行い、ユーザーの運用環境に適した提案を行った。

